

NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第104号(201803)

発行 竹田 幸男



第8回
ビデオ作品発表会
より

妹尾哲男さん
「青森ねぶた祭り」



例会の窓

■平成30年2月例会

日時：2月14日(水)13:30~

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷

欠席者：1名(50音順・敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

- (1) 会報随想 妹尾さん。
- (2) 今年の撮影会リクエスト どのような所へ行きたいか。
 - ・他のクラブ」と合同
 - ・秋には、映像協会で。
- (3) 第11回寝屋川映像フェスティバルは5月13日(日)
 - ・今回からは著作権フリーを心がけて。
 - ・各自の出品作を本日映写、再修正あれば23日まで受け付ける。
- (4) 文化連盟理事会の報告(新井理事)(略)
- (5) 映像協会総会/合同例会 総合センター4F視聴覚室で実施。
3月25日 10時30分 役員会 11:00映像寝屋川例会
13:00~映像協会総会、合同例会。作品映写。

2. 作品映写

- (1) 佐伯さん 「しんちゃんと東福寺」 5分00秒
 - ・しんちゃんに、特化したバージョンで作り直し吹き出しをいれて少しコミカルな線をねらった。
 - ・アングルがいい。画面が新鮮。
- (2) 佐伯さん 「京都加茂川 植物園」 5:00秒
 - ・揺れが気になるので三脚を使うほうがいい。ナレーションが入って良くなった。
- (3) 新井さん 「はすの成長記録」 9分20秒
 - ・BGMを変更した完成品。最後の場面で話しているところは声を低くしては。
- (4) 妹尾さん 「別子銅山を訪ねて」 9分55秒
 - ・江戸・大正・昭和と住友財閥の発展を支えた別子銅山の往時の活動を懐古・紹介。旅行中の撮影なのに大事な物を逃さず撮影されている。
 - ・トロツコの場面では、往復撮影され移動したことがわかっていい。物語になる。
- (5) 小笠原さん 「本四架橋に魅せられて」 9分40秒
 - ・島生まれの作者は、本四架橋に大変興味を持っていた。その気持ちを表現したいと考えて制作した。
- (6) 竹田さん 「夢 大空翔る」 9分36秒
 - ・タイトル「夢」の字を少し大きくしてバランスを良くした。編集には今までに45時間かかっている。細かい部分の欠点も気をつけて治していこうとすると時間がかかる。この手間は、作品品質向上のため惜しまないで欲しい。

3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等(略)



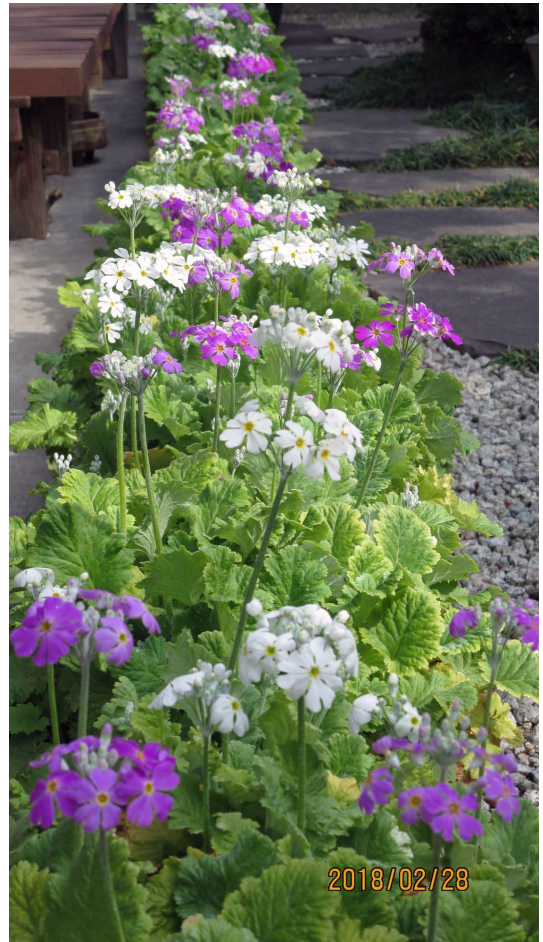


わが家の桜草と君子蘭

妹尾哲男

山間部の田舎で育ったせいか庭木、草花の鉢植えに愛着がある。四季折々の開花や、新緑、紅葉を楽しませてもらっている。とりわけここ十年ほど丹精を込めて育てている桜草と君子蘭を紹介したい。

・桜草は近所に住む松下OGから数本の苗を買って育てたことがきっかけである。時々散水するだけで3~4月にかけて次々と美しく開花し家族を楽しませてくれた。年末近いある日、放置したプランターの全面に薄緑色の新芽がびっしり生えているのを見つけた。頑張っ
て芽を出しているのに放置したままではかわいそうに思い、1センチ位の微小な苗をピンセットで1本1本株分けして、空いているプランター7~8個に手当たり次第植え込んだ。その後は散水する以外に手入れはほとんどしないままでも順調に成長し3月~4月に見事に開花してわが家のベランダを輝かせてくれた。これに味をしめて、その後は毎年同じやりかたで空いているプランターや植木鉢を



(写真1) 桜草

かき集めて植込んでいる。昨年末に移植した苗がそろそろ咲き始め来月にかけてベランダを彩ってくれる(写真1)。ごくごく小さい実生の苗をピンセットで掘んで株分けし植え込むのは少々手間ではあるが、開花をイメージしながら年末行事の一つとして定着している。

・もう一つが君子蘭である。枚方市在住の学友から10年ほど前に君子蘭を2鉢買った。寒さに弱いので冬場は屋内に避難させてやるほかは、年1回の施肥と時々の水やり程度で、3~4月に美しい朱色の花を咲かせてくれる。桜草に比べ開花して



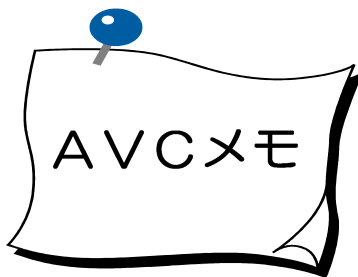
(写真2) 君子蘭

からの寿命は短いが、大きくて豪華な花は見ごたえがある。

その後、店頭で黄色の君子蘭を見つけて追加購入し、生長に合わせた株分けて10鉢に増えている。現在、各鉢から花芽が出始め、日に日に成長している

(写真2)。間もなく朱色と黄色の君子蘭の花が玄関周りを彩ってくれるだろう。

この他にも、紅梅、白梅、鳶、さつき、あじさいなどの盆栽やクリスマスローズ、ヒヤシンス、こぶしなどの鉢植の花を通して季節感とその移り変わりを楽しんでいる。



漆黒の4Kテレビ

竹田幸男

家電量販店へ行くと、テレビは今や4K・4Kの花盛りで、ハイビジョンは、もうすっかり時代遅れ、という感じの扱いになっています。

その中で、一隅に「漆黒の」と題された機種が展示されていました。有機ELパネルを使った4Kテレビです。そこでは、映像として夜の場面が映写されていて、隣に並んだ液晶パネルの4Kテレビにも同じ画面が映写されていて、見ていると一目瞭然その差がはっきりしてくるのです。有機ELパネルのテレビの夜は真っ黒なのですが液晶パネルの夜は濃い青とかグレイの夜です。この差は以前にも触れたことがあります。有機ELパネルの「自発光」という性質にあります。つまり有機ELパネルは信号が入ると自ら発光し、信号が入らないと光は出ないので、全く信号のない真っ暗闇の場面は本当に真っ黒になります。これは過去のテレビであったブラウン管でも同様です。

これに対して液晶は自ら発光しません。映像信号によってパネルを通る光を遮断するか、しないかが決まります。そして液晶パネルの後ろに置いたLEDや発光管

の光を通すか、遮るかによって映像を表示します。真っ暗な場面では光を最大限遮断しようとはしますが、完全には遮断できなくてブルーやグレイに見えてしまいます。ですから、真っ暗闇を表現するのが難しいのです。

これから、次第に有機ELパネルを採用したテレビが増えてくると思いますが、これが液晶テレビとの簡単な見分け方になると思います。今のところ、有機ELパネルは韓国のLG製しかありません。テレビそのものは「日本製」と謳っていても、主要な部品である有機ELパネルは韓国製です。そのうち日本製の有機ELパネルを使ったテレビが出てくることを期待したいと思います。 ■